



〒108-0071

港区白金台

3-7-1

3443-5666

<https://shirokanedai-kg.minato-kyo.ed.jp/>



収穫した大きなサツマイモを手にして喜ぶ3歳児。



焼き芋ごっこで、イモに枝を刺して火の通りを確かめる4歳児



焼き芋会当日、イモの包み方を3歳児に教える5歳児

園生活のつながり

園長 佐々木 勝世



早いもので、今年も残すところ1か月となりました。

1月上旬、ちょうど戸外の空気が冷たくなってきた頃に、幼稚園では焼き芋会を行いました。焼き芋にするサツマイモは、もちろん幼稚園産のもので、全学年が5月に苗を植えてから約140日間、水やりや雑草抜きなどの世話をしてきました。途中、ガの幼虫に葉を食べられてしまうこともありましたが、大きなイモをたくさん収穫することができました。収穫時に畑から取り除いたツルは、綱引き遊びの綱やリース作りなどに使いました。イモを焼く焚火に使う小枝などは、園庭で拾い集めたものです。イモを洗ったり包んだりする準備は、5歳児が下の学年に教えました。自分たちで火の中にイモを入れ、焚火の匂いや暖かさを感じながら焼けるのを待ちました。焼き上がったイモは、園庭でみんなで食べました。焼き芋会の前後では、熊手を使って園庭の落ち葉を集めて、焚火ごっこや焼き芋ごっこをして遊ぶ子どもたちがいました。焼き芋会で教職員の動きをよく見ていた子は、焼き芋ごっこの最中、火が通ったかどうかイモに枝を刺して確かめる仕草をまねしていました。

ここで言いたいことは、園生活は「つながっている」ということです。ある日突然、面白いイベントがやってきて、その時間だけ参加して「あー、楽しかった」でおしまいではなく、子どもたちが主体的に生きる生活では、その日に至る過程や、その後の生活につながりがあるのです。つながりがあるからこそ、準備一つ一つの意味が分かり、やらされる活動ではなく、自ら必要感や期待感をもって取り組む活動になります。また、サツマイモは食べるだけでなく表現活動やごっこ遊びの題材となり、ツルが遊びの道具や製作の材料にもなります。葉を食べるガの幼虫は、観察し飼育する対象になりました。親子での落ち葉掃きの体験を、焚火ごっこの落ち葉集めに生かしました。一つの活動が様々な活動につながり、大人や上の学年の姿が下の学年に受け継がれ、つながることで、幼稚園の生活はより豊かなものになっていくのです。

<12月の指導のねらい>

3歳児

- 自分の思いを言葉や動きで表しながら、好きなことをして遊んだり、友達と関わったりすることを楽しむ。
- 学級や学年の友達と一緒に、鬼遊びや楽器遊びなどいろいろな活動を楽しむ。
- 衣服の調節や上着の着脱など、冬の生活に必要なことを知り、できることを自分でやってみようとする。

4歳児

- 自分の思いを伝えたり、相手の言葉や動きを受け止めたりしながら、友達と関わって遊ぶ楽しさを感じる。
- 友達とのつながりを感じながら、楽器を鳴らすことや一緒に歌うことの楽しさを感じる。
- 自分たちの生活に必要なことに気づき、友達と一緒に取り組む。

5歳児

- 共通の目的に向かって自分の力を十分に発揮し、友達と協力して活動を進め、やり遂げた達成感や一体感を味わう。
- 遊びや活動の中で自分なりのめあてをもち、繰り返し挑戦したり、粘り強く取り組んだりする。
- もちつきや大掃除などを通して、年の暮れの雰囲気を感じ、新しい年を迎える準備をする。